

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2019年2月14日

No.12

2019 J R 総連春闘スタート！ ベースアップ 6,000円要求！

回答指定日 3月15日(金)

～ 「2019年度新賃金要求の申し入れ(申第7号)」第1回交渉報告 ～

中央本部は、本日9時15分より「2019年度新賃金要求の申し入れ(申第7号)」とあわせて「諸要求改善に向けた申し入れ(申第8号)」を会社に提出しました。

申し入れにあたって高木中央執行委員長は冒頭「現行人事制度最後の春闘となるが、新制度への期待につながる申し入れである」ことを明らかにしました。その上で①西日本豪雨災害のおける山陰線への迂回輸送やトラック代行手配、トラック誘導など組合員は収入確保のため必死に努力してきた。②老朽化した設備は依然として多く存在し、その改善は遅々として進んでいない。③会社の経営状況は安定的な黒字を計上する一方で組合員の生活は改善が進んでいない。以上のことを踏まえて、2019年度の新賃金は定期昇給4号俸を前提として6,000円の賃金引き上げ要求を行なうことを申し入れました。また、諸要求改善については諸制度の改善、契約・臨時社員の労働条件の改善、職場環境改善の内容を申し入れ、回答指定日は3月15日とするので誠意ある回答を示すことを主張しました。

これに対して会社は、①今年度は未曾有の西日本豪雨や北海道胆振東部地震など災害が多発したが、迂回運転やトラック代行により輸送を確保したことで輸送量は前年度並に戻っている。②度重なる輸送障害に対して貴組合員が協力して頂いていることに改めて感謝申し上げる。③内外から貨物会社に向けられた期待にモーダルシフトの担い手としてアピールしていく。④2017年度は2年連続の黒字化が目前での交渉であり300円のベアを実施した。しかし今年度は災害による甚大な影響を受け鉄道事業部門の黒字化は絶望的だが、経常利益の黒字確保に向けて取り組んでいる。したがって交渉環境は大きく異なり厳しいと言わざるを得ない。⑤申し入れの要求項目について、回答指定日にむけて緊張感をもって真摯に交渉を重ねていきたいとの見解を明らかにしました。

会社の見解に対して中央本部は、①現行人事制度における最後の春闘となる。定期昇給4号俸の確保を前提と確認したが会社の認識はどうか。その上でベースアップの議論を行なっていく。②団体交渉は職場の組合員も注目している。会社は緊張感と誠意をもって交渉を行なわれたいことを通告しました。会社は人事制度における労使協議は尊重するとし、交渉を終了しました。

組合員の皆さん。2019 J R 総連春闘がスタートしました。春闘とは「労働者＝組合員が団結し、要求実現に向けて統一した闘いを展開する」労働組合の一大闘争です。2年連続ベア実現にむけて、将来につながる賃金改善を獲得するため職場から全組合員参加の闘いをつくりだそうではありませんか！！中央本部はその最先頭で闘うこと明らかにして、第1回交渉報告とします。

次回、第2回交渉は2月26日(火)です。

以上